

かざやしんぶん

14号

30th
people first
ピープル ファースト
IN 神奈川県
かざがわ

2026年 9月 29日(日)

29日: 全体会
13:00
交流会 横浜
18:30

30日: 分科会
9:30-

助成: 神奈川県庁, 横浜府社会福祉協議会, 神奈川県, 横浜市, 神奈川福祉会
後援: 横浜府社会福祉協議会, 神奈川福祉会, 神奈川県知的障害者福祉協議会, 横浜府心身障害者を守る会連盟, 横浜府障害者支援センター, 横浜府障害者就業・生活支援センター, 横浜府障害者相談センター, 横浜府障害者就業・生活支援センター, 横浜府障害者相談センター

しゅざい 主催
ピープルファースト大会
in 神奈川県 実行委員会
045-382-3051
〒221-0801 神奈川県横浜市保土ヶ谷区
田町1696
TEL: 045-382-3055
FAX: 045-370-3340
MAIL: people-first.yokohama@gmail.com

尾野一矢さんについて

一矢さんは1973年3月26日座間市生まれで、51歳です。彼には重度の知的障害と自閉症があります。両親と姉の4人家族で一緒に暮らしていましたが、共働きの両親が世話を続けるのが難しくなり、中学1年生のときに障害児向けの施設に入所しました。そして成人してからは23歳のときに相模原市緑区の県立障害者施設「津久井やまゆり園」に入所しましたが、2016年7月26日、障害者19人が刺殺、職員2人を含む計26人が重軽傷を負わされる「相模原障害者施設殺傷事件」が起きました。犯人はこの施設の元職員で「障害者はいなくなればいい」と主張するなど、障害のある人を差別・排除する考えをあらわにしました。一矢さんも首や腹などに重傷を負いながらも何とか一命は取り留め、徐々に回復に向かいました。両親は重度の障害がある人が暮らす場所は施設以外にはなく、このまま施設での暮らしがずっと続くものと思っていました。しかし、重度の知的障害のある人が支援を受けながら地域のアパートで一人暮らしをする取り組みがある事を、映画「道草」(宍戸大裕監督)やNPO法人「自立生活企画」(東京都西東京市)との出会いにより知りました。集団生活を送る施設ではどうしても一矢さんのペースで生活することは難しく、もっと自由な生活をさせてあげたいという思いが両親の背中を押しました。そこで2018年8月から地域生活を見据えて、自立生活企画の介護者が週1回施設に出向き、家族と一緒に昼食を共にしながら一矢さんとの信頼関係を築いて行きました。そして2年後の2020年8月、故郷の座間市でようやくアパート生活を始めることができました。



施設での生活が計35年ほどに及ぶ一矢さんにとっては戸惑うことばかりの日々かもしれませぬ。それは、私たち介護者も同じです。ともに悩み、そして楽しみながら手探りの日々を送っています。そんな一矢さんですが、いたって普通のおじさんです(笑)。ポテトサラダ、ハンバーグ、納豆、たくあん、板チョコ、缶コーヒーや「一本橋」という手遊びが大好きです。もし一矢さんが「一本橋」と言って手を差し出してきたら、それは「友だちになりたい」というあなたへの親愛の証です。ぜひ相手になってください(介護者が遊び方をお伝えします)。一矢さんは平日の日中は作業所で活動していますが、わが家である「かずやんち」(一矢さんはこう表現します)でのまったりとした時間が何よりも大好きです。一矢さんはその時の気分で、部屋で大声を出してしまうこともあります。この生活を大変気に入っています。私たちはそんな一矢さんをこれからも支え、共に生き、一矢さんの友だちの輪を広げたいと思っています。何かとご迷惑をお掛けしてしまうかもしれませんが、どうか温かく見守っていただければありがたいです。



ピープルファースト横浜大会

第30回ピープルファースト大会が、
2025.11.29～30 横浜にて開催されました。



1157名もの参加者

を得て大盛況でした。

仲間たちとの再会、
絆を確かめあい 2026年は
事件後10年の節目を迎えます。





やまゆり園事件を絶対に風化させ
ない…この神奈川の地で実のある動
きをしていこう…

懇親会では、そんな気合いの
日本酒グイッと飲み干して4杯!?

素敵な仲間たちに囲まれて充実の
二日間でした。



ピープルファーストとは

ピープルファーストは、1973年、アメリカのオレゴン州で ひらかれた会議で、ハンディのある当事者が 「ちえおくれ」や 「知的障害者」と レッテルを はられることが どんなに いやか、ということをはなしあい、「人に どのように しられたい？」と きかれ、「わたしたちは 『しょうがいしゃ』であるまえに 人間だ」と こたえたのが きっかけて 生まれました。1991年、「ピープルファースト」の全国組織として、世界で はじめて「カナダ・ピープルファースト」ができました。そして、アメリカにも 組織ができ、その考え方や 活動が 日本でも当事者の運動として ひろがってきました。

「自分たちのことは、自分たちで決める」という 親や職員が決めるのではない『自己決定』からはじまった当事者運動です。わたしたちは、ピープルファーストを して、 元気が できました。いままで わたしたちが うけてきたことが 「差別」なんだと わかりました。自分たちのことを 自分たちが 社会に うたえていくことが 大切なんだと わかりました

朝霧 裕さんが訪ねてきてくれました！



シンガーソングライター、作家で先天性ミオパチーという、進行性の筋肉の難病をお持ちで、「障害の有無、世代を問わず、だれもが輝ける希望をもてる社会」を目指して活躍されている朝霧さん。以前、やまゆり園事件の衝撃をもとに「きかせてよきみのこと」という素敵な曲を書き上げてくれました。障害や難病をもつ仲間たちと進められたこの曲の制作プロジェクトを通



じて知り合い、ようやく直接お会いすることができました。募る思いが沢山あってあっという間のひと時でした。だっこさん(通称)応援してます！これからもよろしくね！

駆けつけてくれた猿渡達明さんや介護者の皆さんと

きかせてよきみのこと

作詞 朝霧 裕 作曲 朝霧裕 奥野裕介

きかせてよ きみのこと

すきなこと すきなひと すきなたべもの

すきなうたを きみのなまえを

かぞくのことを

「これがいいよね？きみには。」って

ひとにきめつけられないで

みてよ きいてよ

ぼくの わたしの だいすきなこと

あおいそら そよぐかぜ

かさのはな つもるゆき なつはひまわり

いつもあるく さんぽみちに

みつけた なのはな

「どこでもいけるせかい」がいい

なかまはずれにされないで

あるけるひとも くるまいすも

おとなになっても

きかせてよ きみのこと

すきなこと すきなひと すきなたべもの

すきなうたを きみのなまえを

かぞくのことを

きかせてよ きみのこと

すきなこと すきなひと すきなたべもの

みてよ きいてよ

ぼくの わたしの いきているせかいを

みてよ きいてよ

ぼくの わたしの つくりだすせかいを



ステージの朝霧さん



朝霧さんの著書



朝霧さんと仲間の皆さん



トークショーで一矢さんを紹介してくれました

明治学院大学の猪瀬浩平先生の授業

に登壇させていただきました



年末恒例、明治学院大学の猪瀬浩平先生の授業に登壇させていただきました。今年は授業後にちょうど「能登の復興と伴走型支援」をテーマとしたNPO法人抱樸 理事長の奥田知志さんと哲学者で作家の永井玲衣さんのイベントがあり、猪瀬先生と共に参加さ

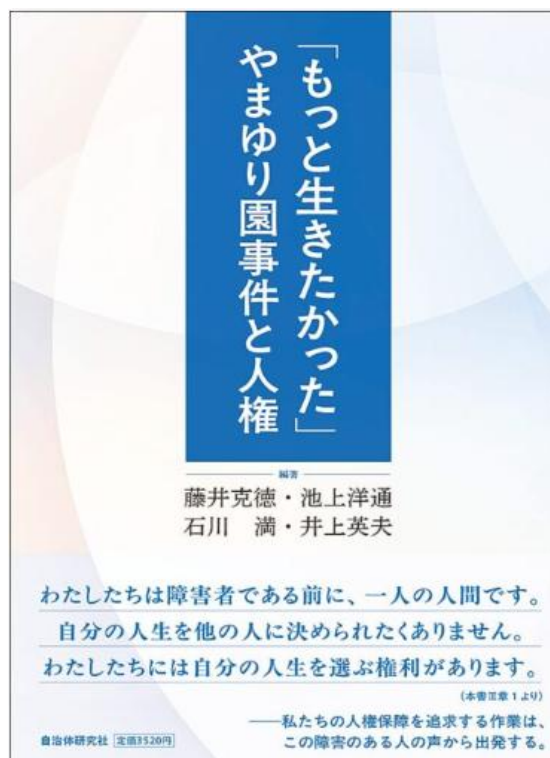


せていただきました。予期せぬ出会い、「伴走型支援」という事で一矢さんの地域生活にも通じるテーマで繋がり会えました。

「もっと生きたかった」やまゆり園事件と人権

事件当時の混乱や一矢さんの地域移行について

尾野剛志(お父さん)と大坪(介護者)も書かせて頂いています。



事件から9年。優生保護法最高裁大法廷判決を踏まえて、人権保障の視点から事件を捉え直す。

「わたしたちは障害者である前に、一人の人間です。自分の人生を他の人に決められたくありません。わたしたちには自分の人生を選ぶ権利があります。」(本書 3 章 1 より)——私たちの人権保障を追求する作業は、この障害のある人の声から出発する。

事件から9年。優生保護法最高裁大法廷判決を踏まえて、人権保障の視点から事件を捉え直す。27名の筆者が、さまざまな立場から事件の根底にある日本社会のマグマのような優生思想、対抗すべき人権意識の弱さ、そして社会保障・社会福祉等政策・制度の貧困を指摘する。とくに、国の人権保障に対する恐るべき無責任体制、自助、共助、公助論、社会保障・社会福祉の民営化・営利化政策があることを厳しく問う。 出版社: 自治体研究社

書籍名	「もっと生きたかった」やまゆり園事件と人権
著者名等	藤井克徳, 池上洋通, 石川満, 井上英夫(編著)
価格	¥3,520 (税込)
発行年月日:	2025年9月25日

じぶんぐらしの本

以前、「楽しい生活応援団」ということで、一矢さんの暮らしなど地域で一人暮らしをする知的障害の方の生活を紹介してくれた本を作ってくれま



したが、その続編として3名の方(かんちゃん、ひーやん、ゆうくん)の暮らしを紹介した「じぶんぐらし



の本」が出版されました。クラウドファンディングで皆さんの協力をお願いし、ようやく形



ひーやんとカプカプ川和にて

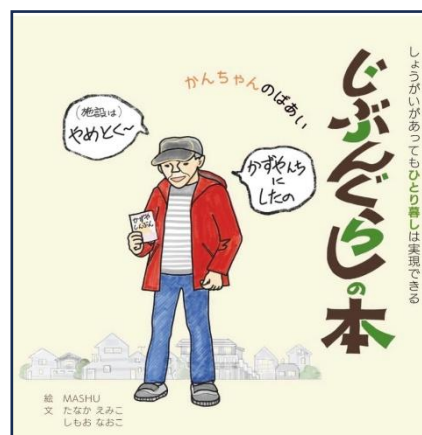
になりました。ご協力ありがとうございました。

『かんちゃんのばあい』じぶんぐらし絵本シリーズ③
作者:しもおなおこ, たなかえみこ イラスト:MASHU
本文は別掲載で「読む」より「見る」絵本。
文字に頼らず伝わる、「かんちゃんの日」。
くっきりしっかりしたイラストで、かんちゃんの日を描きました。
文字は全てQRコードに読み聞かせ文として入れました。
読まなくちゃ!
という余計な強迫観なく、読んでもらう、見てわかる絵本です。

書籍:

ハードカバー版¥2,970 (税込)

ペーパーバック版¥1,320 (税込)



「私たちのことを私たち抜きに決めないで(Nothing About us without us)」を合言葉に世界中の障害のある人たちが参加し作成された「障害者権利条約」。批准国である日本に対し国連の権利委員会による初めての審査がスイスのジュネーブで2022年8月22日から2日間行われました。権利委員会は「(やまゆり園)事件を経て、このような施設で暮らす人達が沢山いる事について考え直した事はあるんでしょうか」と指摘。「障害のない人と平等に施設から地域社会で自立した生活へ移行することを目指し期限付きの数値目標、人材、技術、資金を伴う法的枠組みや国家戦略、その実施のための都道府県の義務付けを開始すること」を求めました。にもかかわらず国による地域移行の現状は年々減速しており、いまでもおよそ約13万人が施設で暮らしています。次回の審査は2028年、早急にヘルパーの育成など地域の体制づくりを進め「脱施設化」に向けた動きを実行していく事が求められています。



発行 かずやさんとその仲間たち

〒252-0005

神奈川県座間市さがみ野3丁目2-19-101

メール kazuya.ono811@gmail.com

Facebook “尾野一矢日記”

<https://www.facebook.com/onokazuyanikki>

ホームページ

“よってけ一矢んち” <http://ono-kazuya.com/>

発行日 2026年1月



“尾野一矢日記”



“よってけ一矢んち”